

会社案内

CORPORATE GUIDE 2025

2025年8月 改訂



国分フレッシュ・フードトランス 株式会社

<https://www.kokubu.co.jp/kft>



代表メッセージ



代表取締役社長執行役員
山崎 佳介

2025年5月1日、低温事業の中核を担う「国分フードクリエイティブ株式会社」と生鮮事業の中核を担う「国分フレッシュリンク株式会社」を統合し、新会社「国分フレッシュ・フードトランス株式会社」を発足いたしました。

本統合により、低温事業と生鮮事業を融合し、サプライチェーン全体を見据えた事業領域を拡大することで、持続的な成長を実現し、付加価値の高い流通を通じて競争力を強化してまいります。

新会社のビジョンは、「つなぐ挑戦、未来を拓く 国分フレッシュ・フードトランス」です。

当社は、川上から川下までのあらゆるステークホルダーと連携し、「絶対的基幹卸」としての役割を果たしながら、柔軟かつ革新的な発想で挑戦を続け、持続可能で高付加価値な食品流通の未来を切り拓くことを宣言いたします。

私たちの4つの宣言

1. Transformation

食のサプライチェーンを変革し、新たな価値を創造します。

2. Transport

持続可能な物流で、生産者の想いも生活者へ繋がります。

3. Transformative Technology

革新的な技術を用いて、無駄の少ない社会の発展を目指します。

4. Transnational

素晴らしい日本の食と文化を世界へ届けます。

私たちが支え合い、そして皆さまと共に4つの宣言を実現し、日本の笑顔を作り続けます。

これからも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社是・企業理念・平成の帳目

国分グループは流通の中核を担う「問屋」の立場から、メーカー・小売業・生活者のそれぞれのお客様のニーズを真摯にみつめてきました。メーカーと小売業の間に位置する私たち卸は、その結節点として、サプライチェーン全体を俯瞰し、双方を繋ぎ、協力・協働することで、付加価値を生み出す最適流通を構築してまいりました。これからも社是の「信用」を大切に、次の100年に向け、ゆたかな未来を創ってまいります。



社是

信用

国分の不変の経営哲学であり、国分の企業文化の根底にあります。
グループ全社員の行動のよりどころです。

企業理念

継続する心・革新する力

300年間紡いだ商いを、次世代に繋げていく。
私たちは食を通じて世界の人々の幸せと笑顔を創造します。

行動憲章 行動規範

平成の帳目

国分には創業期より「会社の決まり」を成文化した「帳目」が存在します。
社是である『信用』を守り続けていくための行動指針です。

平成の帳目 ～国分行動憲章～

1. 私たちは、「信用」を第一に、行動いたします。
2. 私たちは、高い品質の商品・サービスの提供を通じて、社会に貢献いたします。
3. 私たちは、たとえ利益を生むことであっても、見かけ商いをいたしません。
4. 私たちは、常に礼儀をわきまえ、人と人との和を大切に、公平で公正な行動をいたします。
5. 私たちは、全ての人の基本的人権を尊重し、差別や個人の尊厳を傷つける行為をいたしません。
6. 私たちは、法令やルールを遵守いたします。
7. 私たちは、環境保護活動に積極的に取り組みます。
8. 私たちは、会社の有形・無形の財産を守ります。

平成14年2月28日

会社概要

社名	国分フレッシュ・フードトランス株式会社（KOKUBU FRESH & FOOD TRANS CORP.）
所在地	〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-6
代表者	代表取締役社長執行役員 山崎 佳介
設立	2015年（平成27年）2月20日
資本金	500百万円
事業内容	食品・関連消費財にわたる卸売業及び流通加工、配送業務、貿易業、不動産賃貸借業、他
想定売上高	約100,000百万円
従業員数	207名（2025年5月1日現在）

役員

山崎 佳介	代表取締役社長執行役員
鈴木 嘉一	取締役（非常勤）
平井 匠	取締役（非常勤）
御供 講之	専務執行役員 経営統括部長 兼 フレッシュ事業部長
寺本 哲久	執行役員 デリカ事業部長
鎮目 武志	執行役員 低温事業部長
永畑 浩治	執行役員 物流・PC事業部長
柄 秀典	監査役（非常勤）

沿革

国分フレッシュ・フードトランスの沿革

2015年（平成27年）	国分フードクリエイト(株) 設立 国分フードクリエイト東京(株)の全事業譲受 国分(株)東北支社・中部支社、東海国分(株)、北陸国分(株)の低温事業譲受 (株)デイリーフーズの市販用フローズン事業譲受
2016年（平成28年）	国分フードクリエイト西日本(株)と合併
2017年（平成29年）	
2018年（平成30年）	国分関信越(株) から信越支社新潟エリアにおける低温食品卸売事業を統合
2019年（令和元年）	近畿四国支社を関西総合センター内事務所に移転
2020年（令和 2年）	岡山支店を廃止し、広島支店の参加に福山営業所を新設 福山営業所を福山市明神町に移転
2021年（令和 3年）	クリエイト事業を国分グループ本社(株)マーケティング・商品統括部へ事業譲渡 東北、関信越、近畿・中四国エリアの事業をエリアカンパニー（国分東北(株)、 国分関信越(株)、国分西日本(株)）へ会社分割
2025年（令和 7年）	国分フードクリエイト(株)と国分フレッシュリンク(株)を統合し、 国分フレッシュ・フードトランス(株)を発足

国分グループ本社の沿革

三温度帯大型汎用センターとして、 国分板橋総合センター、 国分茨城総合センター、 国分仙台総合センターを開設
三温度帯大型汎用センターとして、 国分西東京総合センターを開設
青果プロセスセンター機能を備えた 川崎流通センターが稼働
日本デリカ運輸(株)を子会社化 関西総合センターを開設

国分 300余年の歩みは、日本の「食」の流通の歴史です。

1712年	国分グループ本社(株)創業 四代国分勘兵衛が、江戸・日本橋に「大国屋」の屋号で店舗を構える 創業時は呉服を手掛けるとともに、土浦に醤油醸造業所を設ける	2005年	資本金を35億円に増資 首都圏で最初の大規模流通センター「八潮流通センター」が稼動
1756年	土浦で醸造した醤油に「亀甲大」のマークをつけ販売	2006年	業務標準化を目的とした業務・会計系システムKMSを導入
1859年	八代勘兵衛、製茶貿易に乗り出す	2007年	医薬品卸の(株)大木、東邦薬品(株)と業務提携
1880年	醤油醸造業を廃止し、広く食品販売を主とする卸売業を開始	2008年	水産物卸売業の大都魚類(株)と業務提携
1887年	食料品・缶詰の販売開始	2010年	中国での物流事業・卸事業の合併会社三通国分商貿（青島）有限公司を設立 双日(株)とベトナム食品流通分野で業務提携 「K&K 缶つま」シリーズ発売開始
1888年	ビールの販売開始	2011年	国内最大手の青果物卸売会社の東京青果(株)と業務提携 本社ビル1階に「ROJI 日本橋」をオープン
1894年	桐印を商標登録	2012年	創業300周年 Huong Thuy Manufacture Service Trading Corporationをグループ化し、ベトナムで卸ビジネスを開始
1908年	K&Kを商標登録	2013年	食品専門分析機関のユーロフィンQKEN(株)（旧・(株)キューサイ分析研究所）へ出資 濰坊三慧物流有限公司（中華人民共和国山東省）をグループ化し、中国で卸ビジネス開始
1909年	「味の素」の販売開始。以降、「カルピス（1919年）」、合成酒「利休（1926年）」も販売開始	2014年	ミャンマーで低温物流ビジネスを開始 上海国分商貿有限公司（中華人民共和国上海市）を設立
1910年	『國分商報』を発刊	2015年	上海峰二食品有限公司（中華人民共和国上海市）をグループ化
1917年	1.8リットルの醤油瓶詰の販売開始	2016年	7つのエリアカンパニー、2つのカテゴリーカンパニー、およびヘッドクォーターカンパニーに、国内卸売業の組織を再編。ヘッドクォーターカンパニーの国分(株)は国分グループ本社(株)に社名変更 Texchem Restaurant Systems（マレーシア）とマレーシアにおける低温食品物流事業を展開する合併会社Kokubu Food Logistics Malaysia Sdn. Bhd.を設立 上海悦思意食品有限公司を設立し、中国における給食・外食事業に参画
1923年	関東大震災により店舗を消失、被災後直ちに復興に着手 生活必需品である醤油の供給に尽力	2017年	代表取締役会長 兼 CEO 国分 勘兵衛、代表取締役社長執行役員 経営統括本部長兼 COO 国分 晃 新体制がスタート 国分ビジネスエキスパート(株)を設立 Focal Marketing Sdn.Bhd.をグループ化し、マレーシアで卸ビジネスを開始
1928年	横浜出張員詰所を開設	2018年	りゅうせき低温物流(株)をグループ化し、沖縄で低温物流を開始 K&Kブランド製品の賞味期限を「年月日」から「年月」表示へ移行を開始 国分フレッシュリンク(株)を発足し、生鮮卸ビジネスを強化 Commonwealth KOKUBU Logistics Pte Ltd.を設立し、シンガポールで物流事業を開始
1931年	第一ビル（旧・日本橋本社ビル）落成	2019年	ワインインポーターの(有)ヌーヴェル・セレクションをグループ化し、ファインワインのラインアップを強化 関西総合センターを開設し、全国の三温度帯物流ネットワークが完成
1938年	大阪出張所を開設	2020年	オープンイノベーションプログラム『国分グループアクセラレーター2020』を実施 「SDGsステートメント」を策定 Kokubu Food Logistics Malaysia Sdn. Bhd.がクアラ・ランブル郊外で4温度帯物流センターを稼動
1945年	札幌出張所を開設	2021年	第11次長期経営計画がスタート。サステナビリティ委員会を発足
1947年	現・国分グループ本社(株)の基となる国分漬物(株)を設立	2022年	創業310年 国分グループ人権方針を策定 国分グループ健康宣言
1950年	(名)国分商店と国分漬物(株)を合併、(株)国分商店となる	2023年	グループ連結売上高が2兆円を達成
1957年	福岡連絡所を開設	2024年	独自の生成AI「KAIWA」を導入し、業務を効率化
1961年	名古屋出張所を開設		
1962年	仙台出張所を開設		
1965年	コンピュータ（IBM1440）導入		
1967年	広島出張所を開設		
1971年	(株)国分商店から国分(株)に社名変更 第1次長期経営計画スタート		
1975年	本社ビル（現・日本橋本社ビル）落成		
1978年	国分グローサースチェーン(株)（KGC）設立		
1981年	チルド食品の自社物流開始		
1994年	一括受注、一括配送の物流システムである3ODシステムを構築		
1995年	全社に電子メール導入		
1999年	国分グループ共有の情報系システム「KOMPASS」稼動		
2000年	単体売上高1兆円を達成		
2001年	フルライン体制構築を目指し、菓子卸事業を開始		
2002年	創業290周年 国分の行動憲章・行動規範である「平成の帳目」、国分グループのコミュニケーションマークを制定		

国分グループ連結業績

連結業績

カッコ内は構成比（単位：百万円）

科 目	金 額	売上比	前年比
売上高	2,157,375	-	104.3%
（食品）	1,418,101	（65.7%）	104.8%
（酒類）	641,693	（29.7%）	102.8%
（その他）	97,580	（4.5%）	106.4%
売上総利益	155,596	7.21%	106.4%
販売費及び一般管理費	133,086	6.17%	105.6%
営業利益	22,510	1.04%	111.3%
経常利益	27,396	1.27%	113.2%
当期純利益	17,448	0.81%	109.9%

（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

部門別売上高

（単位：百万円）

部 門	売上高	構成比	前年比
加工食品	892,644	41.4%	102.9%
冷凍・チルド	467,192	21.7%	108.2%
菓子	58,264	2.7%	108.9%
食品合計	1,418,101	65.7%	104.8%
酒類	347,865	16.1%	105.3%
麦酒	191,354	8.9%	105.1%
ビアテイスト（麦酒除く）	102,473	4.7%	91.7%
酒類合計	641,693	29.7%	102.8%
その他合計	97,580	4.5%	106.4%
合 計	2,157,375	100.0%	104.3%

（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）